

岡本良知 おきもと 白歐交渉史學者。明治二十四年富山縣生れ、昭和四十七年八月八日歿（一九一七）。大正十一年東京外國語學校ポルトガル語科卒。同年ブラジルに渡り、爾後と歐洲各國に留學。九カ國語に通曉した語學の天才で、昭和二十年別府女子大學教授、三十一年亞細亞大學教授となるまで生涯の大半を在野に過ごし、たゞ俗の學者とあり、南蠻學者中の白眉。國語學者山田孝雄は叔父の當る。

著書に『白葡交通の起原（ポルトガル人種子島漂着の事實）』（昭和十二年十一月）二十白葡協會編刊）、『大正十四年大坂城謁見記』（昭和十七年一月十五日笠原書店）、『桃山時代のキリスト教文化』（昭和十二年一月）二十白葉洋堂）、『ザビエルと日本』（昭和二十四年五月五日白鯨社）『キリスト教傳來四百年記念』）、『豊臣秀吉―南蛮人の記録による』（昭和二十八年十一月十八日中公評論社）『中公新書』（等）。

